

教育ニュース「三元 夢求」 21

今週の児童川柳 「走ったら あったかくなり 夏気分」
平成 23 年 2 月 2 日 広島市立吉島小学校

冬陽が差すものの気温 5 度の運動場に、大歓声と赤白帽子の波が。体育委員会が企画し先生たちが応援者となり実現した、休憩時間での「鬼ごっこ集会」(1月 25 日・27 日)。赤の帽子をつけた体育委員会の児童が、まずは鬼役で集会が始まる。時間がたつにつれ、運動場に赤の花(帽子)が増えていく。「きゃあ〜」という声や「はあ〜はあ〜」と息の音が聞こえる。そんな声や笑顔を聞き見ながらやさしいまなざしで微笑む先生たちの姿が運動場のあちこちに。冬の寒さを忘れこれらの光景が感動的で「温っかい」。集会後、体育委員会の児童に、「どうだった?」とたずねると、「みんな楽しそうで嬉しかった。やっぱりやって良かった」と満面の笑顔には満足感が表れていました。みんなが外で体を動かすことの楽しさを味わってほしいと願い実現した新しいこの集会は、大成功のうちに終わることができました。



心を一つに「音楽をつくる」楽しさに興じた 3 年生。みんな輝いていましたよ！音楽の授業が、「スタートライン」の合唱で始まる。頭声発声でとても美しい。口の開け方がもう少し大きければ、一人ひとりの美声が教室になかで共鳴し合いさらにボリュームが上がることも間違いない。続いて、リコーダー「ソラドレ」のリレー演奏。高音であるが、とても音色がやわらかい。そして、いよいよ自分たちが選んだ楽器で演奏し重なる音の響きを聴き合い、その美しさを感じ合う「あの雲のように」の発表が始まった。キーボードをはじめピアノやトランペット、鉄琴や木琴、ベルやトーンチャイムから各班二つの楽器を選び、曲や歌詞から生まれたイメージ(曲想)を体現しようと、どの班もがんばっている。音楽室にはなにか、ほどよい緊張感も。演奏を通して児童が表現したかったのは、「なめらかさ」であり「やさしさ」であったようで、それが、楽器の選択・組み合わせ、奏法に顕著に表れていました。音にふんわり感も加わり、思わず目を閉じて聴き入り、演奏の世界を堪能できた、まさに至福のひと時でした。



心を一つに「1・2・3・4・5・・・」

中区子ども会連合会の主催による大なわとび・リレーなわとび・綱引き競技会が 1 月 30 日に開催されました。

これまで 5・6 年生がリコーダーとなり練習を積み上げた成果を体現する競技会。スポーツ少年団などと同じように、縦割り集団のなか、教え伝え、励まし合いながら自ら立てた目標にチャレンジする競技会。当日は雪の舞う寒い日でしたが、緊張感のなかで子どもたちは、練習成果には届かなかったものの、自校新を記録しました。悔しい思いも貴重な経験に！